

様式第 2 号

視察研修先	大分県豊後高田市	氏名	安孫子 義徳
視察研修項目	移住・定住促進について		

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、西は宇佐市、南は杵築市と接し、また、大分市まで 60 km、北九州市まで約 90 km で、両市に比較的近い距離にあり、北は周防灘に面し、豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属している。

地域の東部から南部にかけては、ハジカミ山、尻付山、両子山や日本三叡山に数えられる西叡山の山々が連なり、その谷間を桂川、真玉川、竹田川が走り、河口付近に市街地が形成されている。

域内には瀬戸内海国立公園及び国東半島県立公園を擁し、山間部及び海岸部の自然景観や農産集落景観、六郷満山文化ゆかりの史跡等、豊かな自然と歴史文化などの地域資源が豊富である。

豊後高田市の移住・定住について

豊後高田市は移住・定住政策に力を入れており、特に若者や子育て世代を中心に積極的な支援を行っている。

1：空き家バンク制度

空き家の増加に対応するため、「空き家バンク」を運営し、市内にある空き家の情報を移住希望者に提供し、マッチングを支援している。

さらに、空き家の改修にかかる費用を補助する制度もあり、移住者にとって住居を見つけやすくする取り組みが進められている。

2：子育て支援

豊後高田市は「子育て応援のまち」を掲げており、子育て世代に手厚い支援を行っている

具体的には、出産祝い金や育児支援施設の充実、保育料の軽減措置などがある。

また、若い世代の移住者が安心して生活を始められるよう、住宅取得支援や住宅ローンの利子補給も行っている。

3：仕事の確保と支援

移住後の生活基盤となる仕事の確保も支援対象。市では、地元企業との連携を強化し、就職支援セミナーの開催や、移住者向けの就業支援プログラムを提供する。また、農業や漁業に関心がある移住希望者に対しては、研修制度や農地取得の支援も行っ

いる。

4：お試し移住体験

移住希望者が実際に地域の生活を体験できる「お試し移住プログラム」も用意されている。短期的に市内に滞在して、地域コミュニティや環境に触れることで、移住後の生活イメージを具体的に持てるようにする試みである。

5：豊後高田市の魅力発信

豊後高田市は、豊かな自然や歴史的な観光資源を持ち、「昭和の町」などの観光地も魅力の一つで、市はこうした地域資源を活かし、移住促進に繋がるイベントや観光プログラムを積極的に発信している。

これらの政策を通じて、豊後高田市は過疎化対策や地域活性化を目指し、多様な支援を提供している。

様式第 2 号

視察研修先	大分県中津市	氏名	安孫子 義徳
視察研修項目	6次産業化の取り組みについて		
中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面している。面積は491.44km²で、地域の約80％は山林原野が占め、三国川下流の平野部にまとまった農地が開け、中津地域を中核としている。北部は狭く南部は西方に大きく張り出した形状を示し、西側に英彦山がそびえ、地域を貫流する三国川の分水嶺となっている。 気候は、瀬戸内海気候区に属し年間を通じ比較的温暖で、冬は北九州方面や関門海峡からの季節風の影響で天気が悪く、曇りが多くなっている。 中津市では、地域資源を活用した六次産業(第一次産業である農業や漁業を基盤に、加工や販売を含む総合的なビジネスモデル)が推奨されている。六次産業、地域の農産物や水産物の付加価値を高め、地域経済の活性化や雇用創出を目的としている。中津市における六次産業の取り組みは、特に農産物や地元特産品の加工・販売に力を入れている。 1：中津市の特産品を生かした加工品 中津市は、豊かな自然環境を背景に様々な農産物生産している。特に「からあげ」や「栗」が有名で、これらを使用した加工品や関連商品が開発されている。栗を使ったお菓子や、からあげを活用したレトルト食品など、地元食材の加工・販売を通じて六次産業化が進められている。 2：農業体験・観光との連携 観光資源と農業を組み合わせた体験型プログラムも展開されていて、農業や収穫体験、地元の農産物を使った料理体験などを提供することで、観光業と農業のシナジーを高め、六次産業の一環として地域外からの訪問者にも価値を提供している。こうした取り組みによって、農業従事者の収益向上や、農業の魅力を発信している。 3：地元企業との協力による商品開発 地元企業や農業団体と連携して、商品開発を行うケースもあり、特に、農産物や水産物の加工食品を開発することで、商品の付加価値を高め、流通を拡大している。地			

域ブランド化や商品開発による販路拡大も、六次産業化の重要な要素である。

４：販路の拡大と直売所の活用

六次産業の一環として、農産物の加工品や特産品を直接消費者に届けるための直売所も活用し、中津市内には、地元産品を集めた直売所があり、観光客や地元住民に新鮮な農産物や加工品を提供している。また、インターネットを通じたオンライン販売も推進され、地元の魅力を全国に発信している。

５：地域活性化の一環としての取り組み

中津市の六次産業は、地域経済を活性化し、若者の定住や雇用創出にも貢献している。地元の農業者や漁業者が加工・販売まで手掛けることで、付加価値が高まり、生産者の収入向上に寄与している。また、若者や移住者がこうした六次産業に参加することで、地域に新しい雇用機会が生まれている。

六次産業は、地域資源を最大限に生かし、地元産業の強化と地域の持続可能な発展を目指す取り組みとして注目されている。

様式第 2 号

視察研修先	福岡県飯塚市	氏名	安孫子 義徳
視察研修項目	ブロックチェーンの取り組みについて		
福岡県飯塚市は、面積 2 1 3 . 9 6 k m²、人口 1 2 4 , 4 2 9 人で、福岡県のほぼ中央に位置し、東は田川市を中心とする田川圏域に接し、西は福岡県を中心とする福岡都市圏に、南は久留米圏域に、北は北九州を中心とする北九州圏域に接している。北と南は遠賀河流域平野として開かれ、東は関の山、西は三郡山地等に囲まれ、良好な自然が残されている。周囲の山脈に源を発する河川は、飯塚市の北部に位置する飯塚地区において多くの支流を集めて遠賀川となり、北流している。 気候は、盆地を形成しているため夏冬、昼夜の気温差が大きく、内陸性気候の特徴を示している。 飯塚市は、ブロックチェーン技術の導入や活用に積極的な姿勢を示し、地域経済や行政サービスの向上を目指している。特に、デジタル技術を活用した地域活性化や新産業の育成が注目されている。 1：地方創生に向けたブロックチェーンの活用 地方創生や地域活性化のためにブロックチェーン技術を活用している。例えば、地域通貨やポイントシステムの導入によって、市内経済の活性化や市民参加型の経済圏の構築が進められている。地域内で使えるデジタル通貨をブロックチェーンで管理することで、安全で透明性の高い取引を実現し、地元ビジネスや商店の活性化を目指している。 2：行政サービスの効率化と透明性向上 ブロックチェーンの特性や透明性を活かし、行政手続きの効率化やサービスの向上も検討されている。例えば、市民のデータ管理や公共サービスの提供において、ブロックチェーンを導入することで、データの安全性を高めつつ、行政の効率化を図ることが期待されている。また、投票システムなどにもブロックチェーン技術が応用できる可能性があり、住民の参加を促す新しい仕組み作りにも寄与している。 3：産学連携による技術開発 飯塚市は、九州工業大学などの地元の大学や研究機関と連携し、ブロックチェーン技術の研究開発を推進していて、これにより、ブロックチェーンに関連する新しい技			

術やアプリケーションの開発が進められており、地域の技術力向上や新産業の創出が
目指されている。大学の研究成果を地域に還元し、スタートアップや地元企業が技術
を活用することで、飯塚市内におけるイノベーションの促進が図られる。

４：スタートアップ支援とビジネス環境の整備

ブロックチェーン技術を活用したスタートアップ企業の支援も、飯塚市の重要な取
り組みの一つで、市は、企業の創業支援や資金調達をサポートし、地域内でのブロッ
クチェーン関連ビジネスの成長を促進している。また、企業が技術を活用しやすいビ
ジネス環境の整備や、企業同士の連携を支援する施策が進められている。

５：地域のデジタルトランスフォーメーション(DX)

飯塚市は、ブロックチェーンをはじめとするデジタル技術を通じて、地域全体のデ
ジタルトランスフォーメーション(DX)を推進している。ブロックチェーン技術は、デ
ータ管理や取引の安全性向上に寄与するため、農業や観光業など、さまざまな産業に
応用することが検討されている。これにより、地元企業の競争力を強化し、飯塚市の
経済発展に繋げることを目指している。

飯塚市のブロックチェーンに関する取り組みは、技術革新を通じて地域の課題を解
決し、持続可能な発展を目指す先進的な例として注目されている。